

平成29年度第3回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（和歌山市会場）

1 日時：会場 平成29年7月31日（月） 13:00～16:00 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛

2 参加者 市町村教育委員会きのくにコミュニティスクール担当者
教育関係者 県立学校関係教職員 共育コーディネーター 等
合計118名

3 内 容

◆講演「次代の若い力を育むために
～あなたの「善意と微力」を少しお借りします！～」
京都市教育委員会 指導部 学校指導課 専門主事 古田 義久 氏

○京都方式（地域とともに行動する学校運営協議会）

- ・小中一貫教育の推進
（「学び」と「育ち」、「地域」をつなぐ）
- ・校長の権限と責任の明確化
（校長の推薦による委員の任命、校長は委員にならない、校長による指定取消の申し出）
- ・学校の応援団としての企画推進委員会
- ・学校の目指す姿の実質化に向けた「教員公募制度」
- ・学校のご意見番としての「学校関係者評価」



○コーディネーターの方々に望みたいこと

学校・地域の課題やニーズの把握・調整、「良質なつながり」の創出

○コミュニティ・スクールのチェックポイント

- ・子供たちの役に立っているのか
- ・参画者相互の互惠性（WIN-WIN）が確保されているのか
- ・活動についての適正な評価が行われているのか

◆ワールドカフェ「学校運営協議会を体験しよう！」

○○学校の学校目標

「ふるさとを愛し 確かな学力を身につけ 心豊かにたくましく生きる子供の育成」



1つのグループに教員、公民館職員、共育コーディネーター、行政関係者等、様々な立場の方々が集い、模擬学校運営協議会を行った。設定した学校目標を共有し、学校の取組や実践、地域の思いを交流した。「地域と学校が一緒に行う取組をする。」「ふるさと学習等をとおして、子供たちに地域のことを知ってもらおう。」等意見が出され、地域と共に子供を育てていく必要性について協議した。

4 参加者の声（アンケートより）

- ・勤務校の地域は、古くから住んでいる方もいれば、ひとり親で校区外からの移住者も多く、PTAでも同じ意識や志をもって取り組んでいくことが大変難しい現状である。こんな時代であるからこそ、子供の自立に向けて、地域の力を借りて育てていくことが大切だと改めて感じた。
- ・教職員にも声をかけ、広く校内でコミュニティ・スクールについての話し合いが持てるようにしていきたい。
- ・ワールドカフェでは、様々な立場の方々から具体的な話を聞くことができ、自校でも参考にしていきたい。
- ・いろいろな職種の人と話をすることで、新しい考えが生まれ、地域とともに子供を育てていく必要性について知ることができた。
- ・学校という狭い視野ではなく、人を多面的に育む必要性を感じた。
- ・地域と学校の連携は、今後、学校の教育にとっても大切になっていくと思う。学校教育だけでは、今後、地域社会でたくましく生きる力を育てるのは難しい。地域の教育力を生かしながら、子供たちの育ちにつながるようにしていきたい。
- ・今やろうとしているコミュニティ・スクールが、将来を生きていく子供たちのためにどのように影響していくかということ、学校や地域等で共有していくと、きっと子供達のためになるコミュニティ・スクールを作っていくことができ、地域の力となると思った。様々な課題が出てくると思うが、進みながらクリアしていきたい。
- ・研修会で、多くの具体的な取組や情報を得られることがとても役に立つ。